

【港湾】 山形県における港湾の機能強化と老朽化対策

1. 目標

【背景】

- 酒田港をはじめとする県内港湾は、国内輸送や対岸貿易など物流の拠点となっているほか、古くから文化や人々の交流の場となっており、周辺には歴史的な施設も多く存在している。
- その中で、建設後50年以上経過する港湾施設が倍増するなど、老朽化対策の対応が必要であるため対策を講じる。

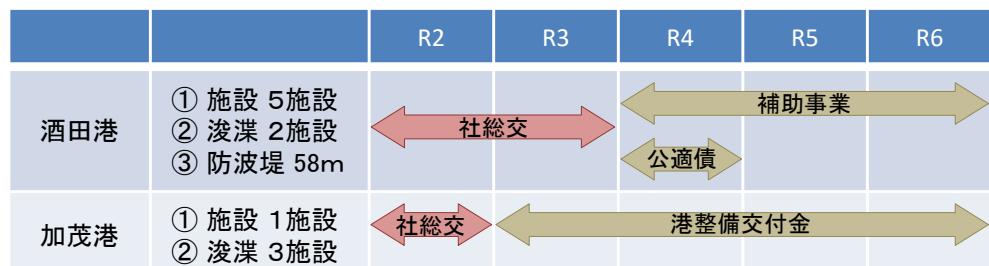
【目標】

既存施設の老朽化対策を進めるとともに、防波堤改良、ふ頭内の保安対策などを確実に実施し、港湾全体の安全性を向上させる。

成果目標	R1	R4	R6	実績
① 老朽化などにより使用制限のある施設、もしくは破損等により安全面からも改良が必要な施設の整備率を100%にする	0%	50%	100% (6施設)	50% (3施設)
② 埋没した水域施設の浚渫を完了させる	0%	40%	100% (5施設)	60% (3施設)
③ 酒田港本港地区の航行安全を図るために防波堤改良を100%にする	0%	100%	100% (58m)	100% (58m)

2. 事業の内容

▶ 事業の期間：令和2年度～令和6年度（5年間）



※ 社会資本整備総合交付金は2年間活用し、以降は財源確保が有利な補助事業等を活用

▶ 事業の主な内容

○ 基幹事業：被覆防食、岸壁改良、航路・泊地浚渫、防波堤改良など

▶ 事業実施主体：山形県

▶ 事業数と事業費：

		箇所数	基幹事業	効果促進事業	計
	計画	12	6.42億円	—	6.42億円
実施	社会資本整備総合交付金	11	0.66億円	—	0.66億円
	その他事業		7.88億円	—	7.88億円
	計		8.54億円	—	8.54億円

3. 事業による効果

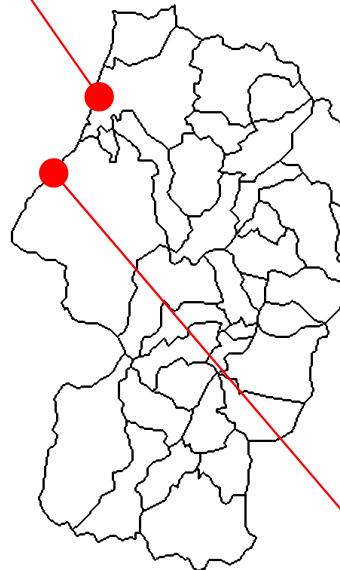
- ①-1 施設
(岸壁等)
対象とした4施設のうち、老朽化が著しい3施設で対策が完了し、船舶利用等の安全性が向上した（残り1施設については、別事業により令和7年8月に完了）
- ①-2 施設
(臨港道路)
対象とした2路線について、特に損傷の著しい区間の対策は実施し安全性が向上したもの、計画した全区間の完了には至らなかった
- ②航路・泊地浚渫
酒田港の2施設は、対策を進めたものの、令和6年豪雨による土砂流入の影響もあり、令和7年度以降も継続的に実施予定一方、加茂港の3施設は完了し、加茂水産高校の実習船「鳥海丸」の加茂港寄港を復活させた
- ③防波堤改良
計画通りに完了したこと、荒天時の越波や最上川からの土砂流入を防止し、本港地区の航行の安全を確保できた

4. 評価と今後の対応

- ◆ 計画期間の途中より、補助事業など他の事業に振り替えることで、当初計画以上の予算を確保することができたものの、物価高騰の影響による対策費用の増加等により、一部施設で完了に至らなかった。
- ◆ 本県の港湾施設（係留施設）は、15年後には約7割が建設後50年以上を経過することから、政府が策定した「第1次国土強靭化実施中期計画」に基づく国の予算確保に努め、計画的な老朽化対策を進めていく。

5. 整備効果事例

【事例①】酒田港 岸壁改良



【事例②】加茂港 航路・泊地浚渫

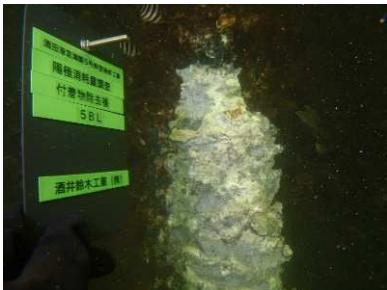


加茂港(鶴岡市)

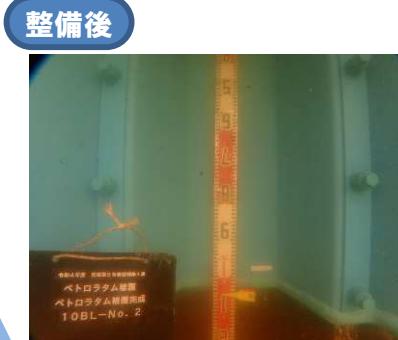
整備前

整備後

被覆防食



電気防食



整備前

整備後



・岸壁の補修により、施設の健全性が確保され、安全性が向上した。

・泊地等に堆積した土砂の浚渫により、船舶の安全性が向上した。
(加茂水産高校の実習船「鳥海丸」の寄港が復活)